湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学　保健医療学部　看護学科

日下桃子

作成日　2026 年 4 月 23 日

1. 教育の責任

◇これまで担当した科目

〈母性看護学領域〉

【旧カリキュラム】

母性看護方法論Ⅰ(必修・2年)・・・妊娠期、産褥期の特徴と看護の基本について講義を行った

母性看護方法論Ⅱ(必修・3 年)・・・産褥期、新生児期の看護について講義・演習を行った

実践看護論Ⅳ(ウィメンズヘルス)(選択・4 年)・・・女性のヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルスについて講義を行った

母性看護学実習(必修・3 年)・・・学内での妊婦モデル・褥婦モデル・新生児人形を用いたケアの演習、臨地における褥婦、妊婦、新生児とのコミュニケーション、ケアの指導を行った

統合実習(必修・4 年)・・・学内において母性領域における看護管理に関する講義、課題の指導、臨地におけるシャドーイングの見守り・指導を行った

【新カリキュラム】

母性看護学(必修・2 年)・・・褥婦の看護について基本的な知識に関して講義を行った

母性看護方法論(必修・3年)・・・褥婦と新生児の看護技術、褥婦の全身状態と退行性変化のアセスメント、新生児の看護について講義を行った

ナーシングスキルⅡ(必修・2 年)・・・膀胱留置カテーテル、採血、注射の演習を指導した。母性領域の演習として、妊婦腹部のアセスメント・妊婦体験・新生児の抱っこ体験・新生児の更衣・清拭等の演習を計画し、実施した

保健医療情報学(選択・2年)・・・2024 年度より担当している。主にグラフデータの読み取りや Excel を用いたグラフの作成について指導をした。

看護基盤実習Ⅰ(必修・1 年)・・・介護老人福祉施設にて高齢者とのコミュニケーション実習の指導を行った

看護基盤実習Ⅱ(必修・2 年)・・・成人・高齢者の病棟で日常生活援助・看護過程を展開する実習の指導を行った

ヘルスプロモーション実習(必修・2 年)・・・ウィメンズヘルスの担当をし、学内実習・臨地実習の指導をした。妊婦・褥婦・新生児に対するヘルスプロモーション活動について見学と看護過程の展開についての指導を行った。

〈大学院(助産)〉

助産学概論(選択・M1)・・・助産師が支援する意思決定支援について講義を行った

助産学特論Ⅰ(選択・M1)・・・褥婦のフィジカルアセスメント、新生児の生理とケア、産褥

期の保健指導について講義を行った
助産学特論Ⅱ（選択・M1）・・・ハイリスク母児の特徴とケアについて講義を行った
助産管理・経営学（選択・M1）・・・災害時の地域母子保健活動について講義を行った
地域・国際助産学特論（選択・M1）・・・諸外国の母子保健活動、在留外国人/海外在住日本人への母子保健活動について概説した。
比較文化助産論（選択・M2）・・・在留外国人への母子保健活動について講義を行った
助産学演習Ⅰ（選択・M1）・・・褥婦・新生児のケアシミュレーションについて事例をベースに演習を行った
助産学実習Ⅱ（選択・M1）・・・臨地実習にて分娩介助した対象者の産褥期の看護、保健指導について指導を行った。

◇大学院研究指導
2023 年 4 月より、指導教員とともに修士 2 年の研究計画、データ解析、論文執筆の指導を行った。
2024 年 4 月に入学した修士 1 年の副指導教員となり、研究計画の指導にあたり、研究倫理審査委員会への申請を行うサポート、修士論文の解析、論文執筆の指導を行った。
2025 年 4 月に入学した修士 1 年のうち 2 名の副指導教員となり、残りの 1 名も含め研究ゼミや個別指導を行う予定である。
2026 年 4 月に入学した修士 1 年のうち 1 名の副指導教員となり、ゼミや個別指導を行う予定である。

◇その他の教育活動
2021 年度　4 年次チューター（ペアの教員とともに 8 名の学生を担当）
2022 年度　1 年次チューター（単独で 12 名の学生を担当）
2023 年度　2 年次チューター（単独で 14 名の学生を担当）
2024 年度　3 年次チューター（単独で 12 名の学生を担当）
2025 年度　4 年次チューター（単独で 15 名の学生を担当）
2026 年度　1 年次チューター（単独で 18 名の学生を担当）
※学修計画の支援、就職活動の相談・面接練習、国家試験の勉強方法の相談、出欠席状況の確認などを行った

2. 私の理念・目的
1) 私の理念
私は「学生のできないところではなく、よいところを見つける」ことを大切にしている。看護の基礎教育を受ける学生には、基本的な知識や技術の獲得、自己学習は着実に行ってもらいたいが、はじめて出会う医療用語や技術の手順などに戸惑う学生も

多いと思う。その時に、できていないところばかりを指摘するのではなく、できているところについてもコメントし、ほめることを意識している。「できた」「うまくやれた」という感覚は自信にもつながり、看護の楽しさを感じることにもつながると思う。
また、学生には自分にかかわるすべての人への感謝を感じ、適宜、感謝の気持ちを伝えられる看護者になってほしいと考えている。両親や家族、友人を大事にして、実習でかかわる対象者に対しても、関心を持って接してほしいと思う。また、実習をする中では、実習の機会を与えてくださる病院や、業務と並行して指導をしてくださる臨床指導者、体調が不安定な中、学生を受け入れてくださる対象者の方への感謝を持てる学生になってほしいと思う。

2) 理念をもつに至った背景

私自身が大学で看護教育を受けていた際に、学部教育の中で、教員にほめていただく経験をすることがあった。初めての分娩介助で、思うように産婦さんに声をかけられず、指導者の方にも厳しく叱責されたが、教員は「最初の分娩介助だったのに会陰裂傷が小さかったのはよくやったね」といってくれたことを今でも覚えている。
思うようなケアができなかったときや、技術が不十分だった時に、学生の多くは「失敗した」「自分が情けない」など自分のことを責めていると思う。そんな時に、できないところをさらに指摘し追い詰めるのではなく、まずは「自分でできなかったところはどんなところだと思う？」と投げかけ、本人が理解しているかを確認するのがよいと思う。そのうえで、「ここはできていましたね」など、できているところを伝えて、自信を持てるようにかかわることが大切だと思う。

3. 教育の方法・戦略

講義：看護師国家試験レベルの知識をおさえながら、実習で実際に活用する知識やアセスメント方法、技術手順について、「絶対に覚えるべきところ」「できれば知っておくとよいところ」などメリハリをつけて講義をするようにしている。また、基本的な知識だけでなく、臨床でのエピソードなどを伝えることで、学生が母性看護学領域への関心を深められるように心がけている。スライドには図表を用いたり、箇条書きにするようにしたり、目から情報が入ってきやすいように配慮している。
また、事前学習課題として、4 択式問題を課し、解説付きで提出してもらっている。それによって、講義前に必要な知識を予習や、前年度の講義の復習を行うことができている。
演習：演習内容は、①妊婦のフィジカルアセスメント（子宮底長、腹囲測定、レオポルド触診法）、②褥婦のフィジカルアセスメント（子宮復古、外陰部、乳房）、③新生児のバイタルサインと全身の観察、④新生児の沐浴を主に行っている。実習場で積極的に観察・ケアができるように、自信をつけられるように、より実習に近い形で演習を行うようにしている。フィジカルアセスメントでは項目や見ていく順番を暗記してもらい、実際にモデル人形を

対象に手を動かしながら、アセスメントを行ってもらっている。また、ビデオ学修を積極的に取り入れている。褥婦や新生児の身体的特徴は実際に映像にしてみることで初めてイメージがつくので、ビデオ学修を講義時や実習前の演習で取り入れている。
実習：実習では学生が過度に緊張せずに、対象者に積極的にかかわることができるように、温和な態度で支持的にかかわるように心がけている。学生に対しては、観察した内容は何だったのか、それを観察してどのように考えているのか、さらに必要な情報は何か、などについて対話形式でその都度振り返りながら、情報収集を深められるようにかかわっている。授乳場面や新生児のフィジカルアセスメントについては、学生とともに行うことで、学生が観察できていることについては「よく観察できましたね」と支持し、「これについても観察されましたね」「これについてはどうですか？」などさらに学びを深められるような声掛けをするようにしている。
自己研鑽：アクティブラーニングの教科書などを中心に、自己学習を進めている。

4. 学習成果

学生からはリフレクションペーパーで、「スライドが分かりやすい」「周辺の話もしてくれるので興味が持てる」などの記載があった。スライドは箇条書きにするなどわかりやすい記載を心掛けていたが、学生からも良好な反応が得られているので、引き続きわかりやすいスライドづくりをしていきたいと思う。また、基本的な知識だけでなく、臨床現場での経験を生かした周辺知識や関連情報について、講義の中でとりいれるようにしていたが、学生が関心を持ってくれているので、今後も現場のイメージがつくような話を織り交ぜていきたい。

5. 改善のための努力

改善が必要な項目については、教科書の効果的な活用ができていないという点である。現在、学生が教科書を自主的に用いて事前学修をする内容にはなっているが、講義自体ではあまり教科書を効果的に活用できていない。言葉の定義や理論、スライドでは表現しづらい図表や、技術手順については教科書をベースに講義できるように改善していきたい。そのため、自分自身で教科書をよく読み込み、教科書で対応できるところは教科書で対応し、対応できない部分だけスライドにするように発想の転換をする必要がある。

6. 今後の目標

短期目標（2026 年度の講義で達成）

教科書を効果的に用いた授業設計にする
教科書を極力活用にして、学生が教科書を活用しながら学びを深められるように支援する。

長期目標（2～3年以内に）

アクティブラーニングを効果的に用いた授業設計にする
一方向的な講義形式の授業が多くなってしまっているので、アクティブラーニングを活用できるようにしていきたい。

【添付資料】
［新カリキュラム］
母性看護学シラバス
母性看護方法論シラバス
・講義配布資料
・授業評価アンケート
・演習資料